

園やご家庭での読み聞かせにお役立てください。



めいさくばなし  
こながるめいろ  
10月の  
おはなし

# ありと きりぎりす

夏のある日、ありたちは、せつせと家に食べ物を運んでいました。一方、きりぎりすは、のんびりとバイオリンを弾いています。

きりぎりすは言いました。

「ありさんたち、なんでそんなに一生懸命働いているんだい？一緒に遊ぼうよ。」

ありたちは、

「今のうちに準備しておかないと、冬には食べ物が無くなってしまつて、後で困るのですよ。」

と言って、断りました。

きりぎりすは、

「あははは。

そんなこと、冬になってからまた考えればいいのさ。」

そう言つて、夏の間、ずっと遊んで過ごしました。

その間も、ありたちは毎日忙しいに働いていました。

そうしているうちに秋が過ぎ、雪の降る寒い冬がやって来ました。ありたちは暖かい家の中で、夏の間貯めた食べ物で、楽しく冬を過ごしていると…。

ドアをノックする音が聞こえてきました。

ドアを開けると、そこには、ふらふらのきりぎりすが立っていました。

「寒いし、おなかですいて…。食べ物に分けてくれないかな？」

ありは、

「きりぎりすさんは、毎日遊んで暮らしていたものね。仕方がないですねえ。」

そう言つて、食べ物を少しだけ分けてくれました。

きりぎりすは、

「ありさん、ありがとう！」

これからはちゃんと働くよ。」

(おしまい)